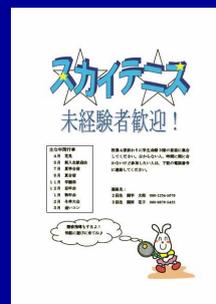


# リテラシー科目における 動画教材の利用

関西学院大学 西本 実苗  
第207回IEC定例会発表資料  
2007年6月10日

## はじめに

- 動画教材のデモンストレーション
  - Wordでの図の利用
    - 学籍番号を含めたファイル名で保存
    - タイトル部分の大きな星(オートシェイプ)
    - タイトル部分の文字(ワードアート)
    - タイトル部分の小さな星(オートシェイプ)
    - サブタイトルの文字(ワードアート)
    - テキストボックスの作成と変更
    - 「テニス」のクリップアートの挿入
    - 吹き出し(オートシェイプ)



## 背景

- 従来からリテラシー科目においては、クラス内における個人差の存在が問題であった
- 具体的には:(a)授業進行についていけない学生と、(b)逆に授業進行が遅く感じる学生の差が年々拡大
- (a)についてはTAの配置、一斉教示とは別に個別に対応する等の対応で一応は解決可能
- (b)については、発展的な課題を与える等の対策は可能だが、授業時間内に授業とは無関係な行為(内職等)をすることが多く、クラス全体の雰囲気に影響を与える懸念があるだけでなく、そもそも対策が難しい
- (a)と(b)を同時に解決する策→能力別クラス編成?

## 背景その2

- 近年は、PC操作スキルの個人差に加え、受講姿勢(態度)そのものの悪化が問題になりつつあるように思われる
- 具体的には:教員の口頭指示が通らない(5つほどの画面遷移をともなうPC操作の指示がクラス全体に通らない;約30名のクラス中、5名ほどが対象アプリケーションの起動すらできていない状態がある;一斉教示をした後、個別にそれぞれ指示をして回る必要がある)

## 無理だ！

- 従来の授業(一般的には)
  1. サブモニタやプロジェクタの画面を通じた, モデルとしての教員画面の提示
  2. 教員の口頭による教示
    - 上記1(視覚刺激)と2(聴覚刺激)による一斉授業
    - 上記1と2の同時進行は, 受講生には負荷がかかることは以前から認識していたが, 2のみでも指示が通らなければどのような教授方法をとるべきか?

## 視覚に訴える教材の必要性

- 教員の口頭指示→基本的には一回性(その場限り)→聞き逃してしまったらアウト
- 繰り返し見られる教材が必要
- 静止画か動画か?
  - 静止画は, PC操作の一連の流れを丸ごと見せるにはあまり向いているとは思われない;プロセスを適宜分割し, 文章による補足をつけつつ作成する努力
  - もし, PC操作を丸ごと録画できる方法があれば, それを使い, 「動く教材」が作成可能

## ツールの発達

- PC操作をキャプチャーできるソフト
  - [Adobe Captivate](#)
  - [Viewletcam](#)
  - その他にフリーソフトでもあるらしい
- 今回の授業実践報告例では、Viewletcamを利用
- Adobe Captivateの活用例：<http://kgeu.kwansei.ac.jp/>

## 教材作成手順

- Viewletcamで、PC操作をキャプチャー
- キャプチャーしたファイル(VCPファイル)をViewletcam上で編集(文字による補足説明の挿入や、マーカーとしての図形オブジェクトの挿入等)
- 編集完了した動画教材ファイル(VCPファイル)をSWF(Flash)形式のファイルに出力(同時にHTMLファイルも作成される)
- 提示方法:各動画教材にリンクを張ったインデックスページを作成したり、WebClass等のプラットフォームに載せる等

## 構造に放り込む

- 動画教材を用意した2回目の授業では、動画教材のアクセス方法と使い方をサブモニタ上にスライドで表示＋教員の口頭指示により、動画教材を用いた自学自習を指示した
- 動画教材を見ないと(使わないと)何もすることがないという状況(構造)を作り出す
- 教員はコーチ(メンター)的役割を演ずる

## 「丸ごと」が重要

- アプリケーションの操作方法について、簡素化・一般化したユニット教材は利用頻度低
- 「今日の授業ですること」を丸ごと収録してしまふことがポイント

## 学生の反応

- 初回は戸惑い
- ブラウザ画面とWord画面の操作に苦労する学生も
- 直ぐに要領をつかみ、課題を早々に終える学生と、個別対応をおこなう必要のある学生とに二極分化
- しかし、「できる」学生も「できない」学生も、各自のペースで進められることには好感を持った様子

## ある学生の声

- (動画教材はまだ使用していなかった)初回授業にて:「高校で情報むっちゃ苦手やってんけど、この授業私は大丈夫ですか?」→?
- 動画教材を2回ほど利用した後の授業にて:「この授業はパソコンの授業やけど置いてけぼりにならないからいい」→高校の「情報」ではPCを使った授業で、教師の指示についていけず焦れば焦るほどどんどん授業の流れから外れてしまい、取り残されてしまうのが辛かった、らしい

## 動画教材の効果

- 学生各自のペースで学習を進められる
- 教師画面＋口頭指示による一斉教授では授業が成立しづらいクラスでも、スムーズな授業進行が可能
- 教員－学生間、学生－学生間の(授業における)コミュニケーション機会が増加？
  - － 教員が個別対応している一方で、課題を早く済ませた学生が他の学生に教えている

## 動画教材への疑問

- 動画による教示を表面上なぞっただけになってはいないか？本当に理解できているといえるのか？
- リテラシー科目では操作を教える部分が比較的大きいが、操作そのものに加え、なぜその操作をするのかという理由も理解する必要がある、統計ソフトを用いたデータ分析の授業などでは効果があるだろうか？
- Windowsの基本的な操作に不慣れな受講生には苦痛